

### ① 参加前の心境

参加前の心境としては不安でいっぱいでした。レジュメはお互いに前の週に送っていましたが、レジュメの不安点や疑問点の打ち合わせを発表前ぎりぎりまで重ねました。

特に扱った事例は刑事裁判、民事裁判双方で処理がなされているため、その関係性はどうかあるべきなのか、実情どうだったのか、時事関係の資料まで含めて収集し、事前に校内で行った雨宮ゼミとの合同検討結果もかねて、夏休み中にも準備のための検討を重ねました。

### ② 合同ゼミをやったの感想

9月15日の熊本学園大学井上ゼミによる発表では、本件判例に関する諸問題や制度、資金の流れの仕組みを発表して頂き、本件判例に関する疑問点がさらに明らかになるとともに、その点についてゼミ内でも夜中に議論することがありました。

9月16日午前中は熊本大学岡田ゼミによる発表でしたが、刑法・刑事訴訟法の視点から本件の事件処理の過程での問題点を明らかにして頂き、刑事法範囲内だけでなく、関係した権力の問題点に触れることが出来ました。

村田ゼミの発表では、双方の先生やゼミ生の方から鋭い質問を頂き、満足にお答えできたか不安な時もありましたが、最終的には、各法だけでなく法全体、「法とは何たるか?」について議論し、これからの法学部での学習に繋がるものとなりました。

### ③ 実務家との交流

本件判例では商業登記が絡んだ事例だったので、その商業登記について実務レベルでどのような問題が生じているのか、その実際の手続はどのようになっているのか、教えて頂き、本件事例の理解がより進むとともに、これから大学生活を抜けて社会に出るにあたりどのように自分の進路を進んでいくのか考える機会となりました。

### ④ その他 (BBQ、懇親会、観光、合宿全体の感想など)

熊本大学の皆さん、熊本学園大学の皆さんと関わらせて頂き、色々な話をしていく中で、普段自分が宮崎産業経営大学という閉鎖された空間で動いていたことに気づきました。

同じ大学生としても普段の活動状況の違いや進路の意識の仕方の違いに、学ばせて頂く点が多く、とても良い刺激を受けることが出来ました。特に、今回合同ゼミで扱いました事例に関しては、懇親会の後でも議論を交わすほど、話し合うことが出来て、悔いの残らぬ発表となりました。